

学校だより 北 陵

川西市立北陵小学校
校長 齋木 久雄

新年あけましておめでとうございます。

本日、3学期の始業式を行いました。旧年中は、本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、厳しい寒さの中で、一見枯れ木のように見える木々も、その外見の裏側では、芽吹く準備を着々と進めています。冬の間蓄えた養分があるからこそ、春の訪れと共に美しい花を咲かせることができるのです。この北陵小学校の子ども達一人ひとりが、美しい花を咲かせるための充実した3学期となるよう、教職員一同、力を合わせて精一杯頑張ります。

以下に、本日の始業式での校長講話の概略を紹介します。

皆さん、おはようございます。18日間の冬休みが終わり、今日から3学期がスタートしました。昨年の12月の全校朝会で、「心は見えないけれど、心づかいはみえる」「思いは見えないけれど、思いやりは見える」というお話をしましたが、覚えていますか？

今日は、新年のスタートに当たり「いろんなことにチャレンジする勇氣」についてお話をします。

何事も、新しく始める時には、失敗するのではないかという不安と戦い、まず一步を踏み出す勇氣が必要ですが、皆さんには、生まれた時からその勇氣が備わっています。そして、不思議なことに、一般的に世の中の物は、使えば使うほど減っていきませんが、この勇氣は、使えば使うほど増えていき、逆に使わなければどんどん減っていきます。

皆さんは、もう今年の目標を立てましたか？ぜひ自分で目標を決めて、新しい事に積極的にチャレンジして下さい。人生には、自動ドアやエスカレーターはありません。ドアの前に立っているだけでは、いつまで経ってもドアは開かないし、階段の前に立っているだけでは、いつまで経っても上に上がることはできません。皆さんが自分の手でドアを開き、自分の足で確実な一步を踏み出してくれることを期待しています。

次に、6年生の皆さんは、3月17日の卒業式まで残り2か月余りとなりましたが、休みの日を除くと実際にこの北陵小学校に登校する日は、今日を含めて49日しかありません。

先生は、昨年の4月にこの北陵小学校に来ましたが、本当に明るく素直で、ルール・マナーをよく守り、何事に対しても真面目に取り組める、この北陵小学校の児童の皆さんの姿に感動しました。そして、いま、この北陵小学校は、とっても落ち着いた素晴らしい学校になっていますが、それは、最上級生である6年生の皆さんが、頑張ってくれているからだと思います。

5年生以下の皆さんには、この6年生が築いてくれた素晴らしい伝統をしっかりと受け継いで、更に発展させてくれることを願っています。

それでは皆さん、1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われるように、3学期は、期間も短く本当にすぐに終わってしまいますが、一日一日を大切にして充実した日々を過ごしてくれることを期待しています。

以下に<相田みつを いのちのことは「育てたように子は育つ」(小学館)>の一部を紹介します。

書家「相田みつを」さんの作品に「欠点まるがかえで信ずる」という書があります。そして、その書に対して、精神科医の「佐々木 正美」さんは、『これは、子どもを育てるために必要な最高の愛、最も自然な愛のある態度である。子どもが最も安心して成長していける親や教師や大人のありようである。子どもに最も大きな自信を与えることができる大人の姿である。私たちは相手が花であれば、どんな花にでも、その色や形や咲く季節などを気にかけることなく、それが十分に美しいと感じることができる。そのように、子ども一人ひとりをそのまま十分に美しいと感じることが出来るような感性を、私たちも一人ひとり磨きをかけて子どもを迎えてやりたいと思う。

私には、この「信ずる」が快く響く。「認める」のではなく「信ずる」というのが何ともいい。子どもは認められているより信じられているほうが、ずっと生き生きすると思う。こちらの価値観を修正して相手を認めるのではなく、子どもの存在そのものをそのまま信じていてやるのである。信じるとは、信じる者にとってもこの上ない安らぎである』と述べられています。

※「子育て」には、本当に色々な側面があります。当然、子どもが悪い事をした時には、しっかりと叱ることが必要ですが、その根元になるのが上記の対応だと考えます。しかし、実際には常に冷静な対応は難しく、感情的に叱ってしまう場面も多々あると思いますが、大人の都合による条件付きの愛情ではなく、「欠点まるがかえで子どもを信ずる」大人の姿を通して、子ども達を見守り・育んで行きたいと願っています。